

## 【1】 財政の動向および前年度収支の状況

### 1 財政の動向

平成 29 年度の一般会計歳入歳出予算は、当初 28,159,000 千円でありましたが、6月に200,000千円、9月に794,000千円をそれぞれ増額補正しましたので、9月末現在の予算規模は、29,153,000千円となっています。これを前年度の9月末時点の予算現計29,749,754千円と比較しますと、2.0%の減少となっています。

特別会計の歳入歳出予算は、国民健康保険特別会計ほか4会計総額で当初13,293,200千円でありましたが、9月に2,116千円をそれぞれ増額補正しましたので、9月末現在の予算規模は、13,295,316千円となっています。これを前年度の9月末時点の予算規模13,102,666千円と比較しますと、1.5%の増加となっています。

事業会計の収益的支出と資本的支出の合計は、水道事業会計ほか3会計総額で12,589,579千円となっています。これを前年度の9月末時点の収益的支出と資本的支出の合計11,478,746千円と比較しますと、9.7%の増加となっています。

### 2 平成 28 年度普通会計歳入歳出決算の概況

普通会計とは、地方公共団体間の財政比較等のため地方財政統計上統一的に用いる会計区分であり、一般会計と企業会計・事業会計等を含まない特別会計を合算した会計区分です。

平成 28 年度普通会計決算額は、歳入が 30,445,454 千円（前年度 29,015,503 千円）、歳出が 29,548,484 千円（前年度 27,649,088 千円）、前年度と比較すると、歳入は 1,429,951 千円（4.9%）、歳出は 1,899,396 千円（6.9%）の増加となりました。

歳入歳出差引額（形式収支）は、896,970 千円の黒字となり、翌年度へ繰り越すべき財源を控除した実質収支も、799,867 千円の黒字となりました。

歳入においては、自主財源のうち基幹的な財源である市税は、個人市民税が 0.3%増加しましたが、法人市民税が 2.3%減少しました。固定資産税は、土地で 0.7%減少しましたが、家屋で 2.1%、償却資産で 1.8%増加しました。市税全体では 0.8%の増となりました。財産収入は若者定住促進住宅整備事業の土地売払収入により 243.5%と大幅に増加し、寄付金はふるさと納税制度「びわ湖高島えんむすび」により 45.6%増加しましたが、分担金及び負担金は 36.6%減少し、自主財源全体では 9.0%の増となりました。

依存財源では、国有提供施設等交付金が 16.6%、国庫支出金が 9.8%、

合併特例債の活用により市債が 34.9%それぞれ増加しましたが、株式等譲渡所得割交付金が 62.4%、地方消費税交付金が 12.3%、地方交付税が合併算定替えによる段階的縮減等で 3.2%それぞれ減少し、依存財源全体では 3.2%の増となりました。

歳出においては、目的別歳出決算で大きく増加したものは、総務費が庁舎増築・支所庁舎整備事業により 15.4%の増、衛生費で汚泥処理施設共同整備事業により 19.9%の増、土木費で消雪設備整備事業や雪寒対策事業、橋梁長寿命化等で 17.2%の増、教育費で中学校大規模改修事業や小・中学校トイレ改修事業、社会体育施設天井等落下防止対策事業費で 23.8%の増となりました。

一方、大きく減少したものとしては、商工費でグリーンパーク思い出の森施設改修事業の終了等により 39.9%の減、災害復旧事業の終了により 92.6%の減となりました。

次に、性質別歳出決算における本年度の特徴は、義務的経費では、公債費が 6.5%の減となりましたが、扶助費が特別臨時給付金等により 4.7%の増となり、義務的経費全体では 1.7%の減となりました。一般行政経費は、物件費では除雪費等で 5.9%の増、維持補修費、補助費で 1.1%の減、全体では 3.2%の増となりました。投資的経費は目的別の内容から普通建設事業が増えたことにより 36.6%の増、積立金ではふるさと納税や繰越金により 55.2%の増となりました。

### 3 平成 28 年度収支の状況

実質収支	799,867 千円	(前年度	1,249,724 千円)
単年度収支	△449,857 千円	(前年度	331,046 千円)
実質単年度収支	500,019 千円	(前年度	751,867 千円)

#### (1) 実質収支

平成 28 年度における歳入歳出差引額（形式収支）は、896,970 千円の黒字となり、翌年度へ繰り越すべき財源を控除した実質収支も、799,867 千円の黒字となりました。

（実質収支 799,867 千円＝歳入 30,445,454 千円－歳出 29,548,484 千円－翌年度繰越財源 97,103 千円）

#### (2) 単年度収支

当該年度の実質収支から前年度の実質収支を差し引いた単年度収支は、△449,857 千円の赤字となりました。

（単年度収支△449,857 千円＝平成 28 年度実質収支 799,867 千円－平成 27

年度実質収支 1,249,724 千円)

(3) 実質単年度収支

単年度収支に財政調整基金への積立額および地方債の繰上償還金を加えた実質単年度収支は、500,019 千円の黒字となりました。

(実質単年度収支 500,019 千円 = 単年度収支△449,857 千円 + 財政調整基金積立金 949,876 千円)